

## [ 台湾 ]

### 高岡クラフトが挑む台湾

富山県台北ビジネスサポートデスク

(株)ジェック経営コンサルタント台北事務所 所長 平川 正紘

#### 1 背景

2014年をきっかけに富山と台湾では工芸品・デザイン交流が行われるようになった。販路拡大のための展示会や企画展、台湾のデザイナーとの交流、台湾でのワークショップの実施、インバウンドへの取り組みなど、現在はその内容も多様化している。今回は高岡クラフトの台湾展開や交流に関して紹介する。

#### 2 きっかけ

交流のきっかけは2014年夏に台東で行われた「台湾デザインエキスポ」に県内のメーカー5社が参加したことまで遡る。



きっかけとなった台湾デザインエキスポIN 台東



台湾側による富山県総合デザインセンターへの訪問

出展するにあたりメーカーだけではなく、「富山県新世紀産業機構」からも職員が現地に赴くことで「台湾デザインセンター」との意見交換の場が設けられ、同年の11月には「台湾デザインセンター」がミッション団を富山に派遣して「富山県総合デザインセンター」や県内のメーカーを訪問し、活発な意見交換が行われた。

#### 3 産業支援機構の取り組み

2015年から3年間にわたり「台湾文博会」（台湾で最も大きいデザイン工芸展）に富山県パビリオンを設置し、各出展企業のフォローを行った。

継続して展示会へ出展したことで代理店契約へとつながったメーカー、また現地販売も可能な本イベントでテスト販売を行い、販売実績を作ったメーカーなど多くの成果が得られた。

また会期中には独自の商談会を開催し、県内メーカーと台湾デザイナーとの意見交換の場を設けるなど、マッチングへの取り組みが重点的に行われた。

#### 4 台湾デザイン×Made in富山

両者の交流が進む中、2016年8月「富山県総合デザインセンター」と「台湾デザインセンター」が「連携に関する覚書」を交わした。一番の目的は富山と台湾の共創だ。

デザイナーとメーカーという立場の違いに加えて、文化の違いがあるため、マッチングから商品化に至るまで多くのハードルがある。その為、台湾のデザイナーには富山に来てもらい、自分のデザインを実際に製作（試作品づくり）したり、メーカーへの視察を通じて技法に関する理解を深めてもらうなど、「高岡のものづくり」を体感してもらう取り組みが行われた。

現時点では商品化された商品は多くはないが、現在も開発途中の案件は多数ある。

また欧米市場への展開を目的に台湾のデザイナーをパートナーとして考えているメーカーも少なくない。



台湾デザイナーによる商品試作の様子

## 5 モノからコト、インバウンドや交流へ

マッチングが進むにつれてメーカー独自の企画展の開催やイベントへの参加など民間レベルの活動も年々、活発化している。

あるメーカーでは企画展を行う際に職人自ら訪台し、実演やトークショーを行うことで、ものづくりの工程、ブランド理念、商品化までのストーリーなどを積極的に伝えている。

最近ではワークショップを行い、ものづくりの楽しさと難しさを知ってもらう取り組みも増えてきている。2017年の台湾文博会にて高岡伝統産業青年会が、「鋳物体験」「螺鈿体験」を実施したところ多くの来場者で賑わった。

また高岡市も2018年3月に台北市内のセレクトショップで通常のクラフト品の展示販売に併せて



高岡伝統産業青年会によるワークショップの様子

ワークショップを行う。産業観光の受け入れが進むとともに、高岡クラフトの食器で楽しめる飲食店が増える高岡市では、伝統工芸を目的地としたインバウンドの効果も期待されている。

## 6 未知なる可能性 映画「デンサン」

「商品を作る・販売する」以外にも新しい方法で高岡の伝統産業PRが行われている。高岡のものづくりの楽しさや伝統とは何か？を多くの人に知ってもらおうと企画された映画「デンサン」は、台湾でも独自の展開として動き出している。

2017年12月に海外初となる試写会が台北で開催された。試写会は二日間行われ、初日はデザイン関係者、学校関係者を中心に、二日目は一般の方を対象に実施し、好評を得た。

試写会では映画を見るだけではなく、監督自ら講演を行い「なぜ、この映画をつくったのか」「伝統産業とは何か」といった想いを伝え、また会場には映画に使用された高岡クラフトが展示され高岡を感じていただく工夫がなされていた。

今後は台湾南部の大学や高校での上映予定があり、本映画を通じて高岡の伝統産業の紹介はもちろんのこと、高岡と台湾の交流のきっかけになるような取り組みが計画されている。



映画「デンサン」の試写会の様子

## 7 最後に

台湾における高岡の伝統産業の役割は商品販売に留まらず、高岡の良さを伝え、台湾との交流テーマとなるなど多岐にわたり、今後、益々その重要性は深まっていくと感じている。

将来、台湾との交流により発生した「何か」が高岡の新しい伝統の一つになるかもしれない。